

品種解説：「あきたこまち」

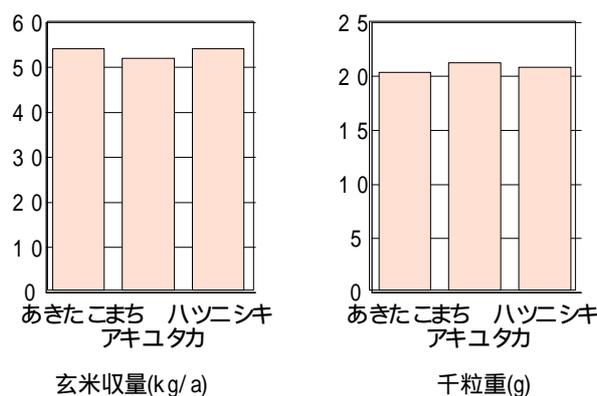
概要：本品種の障害型耐冷性は「ヨネシロ」には及ばないが「ハツニシキ」「アキヒカリ」より明らかに強い“中”である。名前の意味は、“秋田県雄勝町小野の里に生まれたと云われる小野小町にちなみ、おいしいお米として名声を得るようにとの願い”を表現する。

1．来歴の概要

「コシヒカリ」を母とし、「奥羽 292 号」を父として、1975 年に福井県農業試験場で人工交配された。秋田県農業試験場は 1977 年に第一世代の株を譲り受けた。1981 年に「秋田 31 号」の系統名が付けられ、1984 年に「あきたこまち」として登録された。

2．形態的特性

- ・ 稈 長：「アキユタカ」よりやや短い。
- ・ 穂 長：「アキユタカ」よりやや短く、「ハツニシキ」程度である。
- ・ 穂 数：「ハツニシキ」より少ない、“中稈偏穂数型”のうるち種である。
- ・ 粒 大：「キヨニシキ」「アキユタカ」より小さく、「ササニシキ」並みである。
- ・ 千粒重：「キヨニシキ」より約 1g 軽い(下図参照)。



3．生態的特性

- ・ 出穂期・成熟期：「ハツニシキ」「アキユタカ」並みで、育成地では“早生の晩”である。
- ・ 収量性：「アキユタカ」よりは明らかに多収である(上図参照)。「アキヒカリ」「キヨニシキ」に比べると、明らかに劣る。
- ・ 耐倒伏性：「ハツニシキ」「ササニシキ」よりは明らかに強いが、やや強の「トヨニシキ」には及ばない“中”である。
- ・ 葉いもち抵抗性：“やや強”
- ・ 穂いもち抵抗性：「ハツニシキ」「アキヒカリ」より強く、“やや強”である。
- ・ 耐冷性：「ヨネシロ」には及ばないが、「ハツニシキ」「アキヒカリ」よりは明らかに強く、“中”である。
- ・ 穂発芽性：「ハツニシキ」より明らかに穂発芽しにくく、「アキユタカ」並みの“やや難”である。

特 性	あきたこまち	アキユタカ	ハツニシキ
耐冷性	中	中～やや弱	弱
耐倒伏性	中	中	弱
葉いもち抵抗性	やや強	-	中
穂いもち抵抗性	やや強	極強	弱
穂発芽性	難～やや難	難～やや難	易

4．品質・食味特性

- ・粒の銚色が強く、乳白、心白も少ない。
- ・玄米の外観品質は「ハツニシキ」「キヨニシキ」よりも良く、「アキユタカ」並みである。
- ・食味は「ササニシキ」「コシヒカリ」に遜色ない。

5．適地等

- ・高冷地、中山間を除く県内一円に適する。但し、白葉枯病の常発地や、冷害の常襲地および極端な不良土壌条件の地域には向かない。概して、肥沃な土壌が好適するとみられる。

6．栽培上の注意

- ・「トヨニシキ」「アキヒカリ」等に比べ発芽性がやや鈍いので、催芽・播種（出芽）時に低温にあうと出芽・初期生育がやや乱れる。
- ・短苗で充実度（乾物重）もやや小さい傾向がみられるので、育苗では過剰な灌水・過保護管理にならないように留意する。
- ・本田の初期生育は良い方だが過繁茂に注意し、基肥窒素は「アキヒカリ」並みとして、減数分裂期追肥を効かせる施肥体系を考える。
- ・稈は太いが、稈質は不十分なので倒伏に注意する。
- ・登熟期に下葉枯れが早くからやや目立つので施肥と水管理に注意する。
- ・いもち病、特に穂いもちについては、「キヨニシキ」「アキヒカリ」同様、早期発見、早期防除を前提とする。
- ・白葉枯病には弱いので、常発地帯での栽培は避ける。

< 参考資料 >

- ・斎藤正一他(1989) 『水稻新品種「あきたこまち」の育成について』秋田県農業試験場研究報告 29号。